

動薬協会発 168 号
令和 5 年 3 月 20 日

公益社団法人日本動物用医薬品協会
会員各位

公益社団法人日本動物用医薬品協会
理事長 池田 一樹
(公印省略)

新年度に向けた家畜伝染病発生時に係る防疫体制の点検・確認について

平素より協会事業にご理解とご支援を賜り、御礼申し上げます。

さて、標記のことについて、別添のとおり動物衛生課長通知（4 消安第 7124 号）がありましたので、お知らせします。

4 消安第7124号

令和5年3月17日

公益社団法人 日本動物用医薬品協会理事長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

新年度に向けた家畜伝染病発生時に係る防疫体制の点検・確認につ
いて

日頃より家畜衛生の推進にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。
このことについて、別添のとおり都道府県畜産主務部長宛て通知しましたの
で、御了知の上、会員に周知いただきますよう御協力をお願いします。

写

4 消安第 7124 号
令和 5 年 3 月 17 日

都道府県畜産主務部長

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

新年度に向けた家畜伝染病発生時に係る防疫体制の点検・確認について

日頃より家畜衛生の推進にご理解とご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今シーズンの家きんにおける高病原性鳥インフルエンザは、これまでで最も早い 10 月 28 日に初めて発生が確認され、3 月 14 日までに 26 道県 80 事例（約 1,612 万羽）と過去最多の発生状況となっています。発生頻度は 2 月以降、減少傾向にありますが、3 月に入っても福岡県、新潟県、岩手県と広範囲で発生が確認されています。昨年は 5 月まで発生が続いたことから、引き続き、発生予防を徹底するとともに、万一の発生時には迅速に防疫措置を講じることが重要となります。

また、豚熱については、3 月 2 日に養豚場でおよそ半年ぶりとなる発生が確認されました。これから野生いのししの活動が活発化する時期となりますので、飼養衛生管理の一層の向上とともに、ワクチン接種推奨地域では適時・適切なワクチン接種、野生いのししのサーベイランスなど、対策に万全を期す必要があります。

このような中、新年度に向かい人事異動の時期となりますが、家畜衛生関係者をはじめ防疫措置に係る全ての庁内関係部局や出先機関、市町村、関係団体・組織、関係事業者との緊急時の連絡体制の確保や必要な資機材の確保等について点検・確認いただき、万一の発生時の迅速かつ的確な防疫措置に遺漏のないよう万全の対応をお願いします。